

小学校図書館における情報センター機能を活用した支援の現状と課題

成松 万里奈

情報社会が進展するなかで、情報や情報手段を適切に活用できる能力を身に着けることが求められるようになった。教育の情報化に関する様々な文書が出され、現在学校現場では情報教育、教科指導における ICT 活用、校務の情報化が進展している。一方、学校図書館は「情報センター」として情報活用能力育成の場であるとされており、情報教育との関連性が高いと考える。今後さらに学校の情報化が進展する中、学校図書館はより一層情報センターとしての支援の充実を目指す必要がある。そこで、本研究は小学校の図書館における情報センターの機能を活用した支援の現状を明らかにし、その課題を考察することを目的とする。

研究方法は文献調査と訪問調査である。文献調査では教育の情報化や学校図書館に関する政策文書を中心に検討し、学校図書館が求められてきた役割・機能とそれに対する小学校図書館の現況について整理した。また、学校図書館関係の雑誌を中心に情報センターとしての学校図書館の取り組み、支援の実践報告について分析を行った。訪問調査では、小学校4校の学校図書館担当職員を対象としたインタビューにより、学校図書館の情報センターとしての支援の現状・課題について検討した。

文献調査の結果から、学校図書館の情報センター機能は学校の情報化との関連性が高く、情報センター機能を活用した支援においては優れた事例がいくつか見られた。その中で学校図書館が求められている役割を果たすために必要な、人的整備と物的整備の二点について検討した。物的整備面では多様な情報源の整備、人的整備面ではそれらの多様な情報源を扱う専門家としての司書教諭が求められたことに対し、学校図書館メディアの配備状況・学校図書館担当職員の配置状況は決して十分であるとは言えない状況にあることがわかった。また、訪問調査の結果から、多様な情報源の整備不足や人的整備の不十分さのほか、学校への情報機器の導入・教科における ICT 活用が進んでいる学校においても学校図書館の情報化は遅れており、かつ学校教育の情報化と学校図書館の連携は取れていないことが明らかとなった。

これらのことから、学校図書館に対して、情報センター機能を活用した支援には、(1) 学校図書館の情報化の遅れ (2) 学校図書館と教育の情報化の連携不足 (3) 学校図書館の人的整備の3つの側面から課題を捉えることができた。これらを解決するために、学校図書館と教育の情報化両方を統括する新たなチームの設置が学校内に必要であると考えられる。また、学校図書館担当職員は (1)、(2) の課題に関し、情報や教育に関する知識を持ち、情報センターとしての支援に積極的に取り組む必要があると考えている。情報担当と学校司書、司書教諭がグループとなり、学校全体の情報化に対して、情報機器の導入や情報活用能力育成、ICT 活用に関する体系表を作成するなど、各側面から一丸となって取り組むことが重要であると考えられる。

(指導教員 平久江祐司)